

テーマ

輪！和！話！子どもの笑顔はじけるまち田原

目 標

ふるさとや自然を愛する心を育て、伝統文化や産業を守り、伝える。
学校の活動に参画し、学校を支える。

今年度の取組紹介



「田原の子どもたちは田原に住むすべての人で育てる」の考えのもと、毎日の「交通安全立哨指導」や環境整美活動「どんごが丘整美作業」や「田原ふれあい夢花壇」等に取り組みました。安心安全な地域及び学校環境づくりや地域活性化を目的とした「田原体育まつり」や「盆踊り」の実施や田原人權の日に講演会を合同開催するなどし、同じテーマで地域と学校が共に活動し、学ぶ機会を設け、見識を深めました。

各行事では、保護者、地域教育協議会、有志の方々100名ほどの協力を得ることができました。

また、田原小中学校は「文化遺産に学び、地域の歴史と伝統のよさに気づき、自分たちの町を愛し、郷土に暮らすことに誇りと喜びを感じることのできる子どもの育成」を目指しています。その目標を達成するため手立ては、地域に伝わる文化や伝統を次世代に伝えていくことであると考えます。伝統芸能保存会を中心に、田原幼稚園、小中学校合同で祭文踊り・千本づき(餅つき)など地域に伝わる文化や伝統を子どもたちに伝えていきます。また地域の伝統産業を指導するためゲストティーチャーとして協力しています。



今年度のまとめ

田原は美しい里山の中風景や伝統文化が脈々と現在にまで引き継がれている地域です。この素晴らしい伝統や文化を守り、継承していく地域人材の育成が肝要であると考えます。そこで、本地域教育協議会では、幼稚園、小中学校が「ふるさとや自然を愛する心を育てる」「地域に伝わる文化や伝統を守り伝える」「できる限り学校の活動に参画し、学校を支える」を目標に様々な活動に取り組んでいますので、今後も引き続きさまざまな形で支援していきたいです。そして、地域で育った子どもたちが次の世代の人材を育てるためのよい仕組みを構築することに全力を尽くしたいと思います。

来年度に向けて

コミュニティスクールとしての活動により、今年度は、地域に「学校づくりへの意識」がかなり高まったと思われます。一方で、来年度からの幼稚園の閉園が決定し、地域の少子高齢化が現実の形として表れてきています。

来年度は、田原地区の活性化を図るための人材を自分たちの地域で育てる仕組みとして、幼稚園跡地を有効に活用した、新しい地域教育の組織構想である「どんごが丘教育コミュニティ広場」計画の実現を図ります。コミュニティスクールと地域教育協議会を核に、学校教育、育友会、学童保育等の教育組織が一つに集まり、より強く連携するための仕組みを構築していきたいです。

テーマ

未来に夢つなぐ一貫教育TAWARA

目標

9年間の学びを再構築し、将来の自己実現につなげる

今年度の取組紹介

【キャリア教育を核とした取組】

田原小中学校は一体型小中一貫教育校の特性を生かし、発達段階に応じて前中後期の各ブロックに分かれて、特色ある活動に取り組んできました。児童生徒は上の学年をモデルにし、自然とブロックの中でリーダーが育つようになっていきます。中学生である7年生からは、学校行事や各ブロックの行事をはじめ、日常生活のあらゆる場面で学校の中核となります。ブロックの枠を外した異年齢集団による活動や生徒が企画し、運営する「どんごが丘フェスティバル」も定着しています。運動会も含め、行事の運営支援に地域ボランティアの



方が協力していただけることは大変ありがたいことです。

また、学習支援においても「剣道」の授業や起業家教育の一環として取り組んでいる田原活性化のための商品開発への助言、職場体験ポスターセッションへの参加など、地域の方に様々な形で関わっていただき、より深い学びにつながっています。



今年度のまとめ

今年度も「9年間の連続性・継続性を生かした一貫教育を行い、豊かな心と確かな学力を身につけた世界にはばたく人間を育成する」を学校目標に田原小中学校は小中一貫教育を進める一方で、現実的な課題を見つめ、これから必要とされる力の育成を見据え、改善するためのリサーチとPDCAに取り組みました。地域に学び、地域に生きる人の思いに寄り添うことで、今後見通しの立てにくい時代を生き抜く力を養うために、しっかりとした根幹の力を育てられると考えます。それは、奈良や日本を支える人材へととり得ると思います。

今年度は起業家教育をはじめ、キャリア教育にも力を入れて取り組みました。地域の実態を知り、課題を見つめ、地域や自分の未来を考えることで、愛郷心や地域への貢献しようとする心が育つと考え、取り組んできました。

来年度に向けて

小規模校ゆえの課題として、人との関わりの少なさが挙げられます。これを克服するために、各学年において、人と出会う機会を設けて広がりをもたせようと努めてきました。今年度は、校外学習などの機会をうまく活用し、学習活動範囲を広げ、児童生徒が積極的にアンケート活動を行うなど人と関わる機会を意図的に多く設定しました。また、起業家教育や職場体験ポスターセッション等で、地場産品の商品開発や地域の人と意見交換等、人との関わりを広げる学習をさらに進めてきました。

次年度は今年度の取組をさらに発展、深化できるように計画していきます。今年度以上に児童生徒自身が主体的、積極的に地域と繋がり、様々な場面で交流を企画できるように支援していきます。

テーマ

田原大好き！未来にはばたけ田原っ子

目標

田原に学び、田原を愛し、田原を誇りに思う気持ちを育成する

今年度の取組紹介

昨年に引き続き子どもたちが自分たちの住む地域に関心をもって取り組める体験的な活動を中心に、保護者・地域の方から伝統芸能や文化について教えていただく機会を設けています。幼小中合同運動会に向けての祭文踊りや祭文語りの練習、本番での祭文踊り、千本づきによる餅つきはその典型例です。

また、地域の特産であるお茶についての学習や花壇の整美、稲



刈りやリンゴ狩りといった自然体験活動も、地域の方の協力で積極的に取り組むことができました。生活科や総合的な学習の時間等を活用して、特産品であるお茶や米作りについて、地域の方から指導、助言をいただきました。また「どんごが丘フェスティバル」では自分たちが学んできたことを、地域の方の前で発表し、学習内容、活動を知ってもらうことができました。

今年度のまとめ

田原小学校は、日本の原風景が残る落ち着いた環境の中にあります。学校がある田原地区は太安万侶の墓や奈良県無形民俗文化財に指定された「祭文」が脈々と伝わってきた伝統と文化を重んじる地域です。

近年、過疎化に伴う少子高齢化の影響で、子どもの数も減少傾向にあります。地域では、地域に根差す人材を育成し、活性化するために様々な取組を試みています。このような深刻な課題を踏まえ、学校においても、小中一貫教育校の特性である9年間の系統性、接続性を生かし、地域を支える次の世代の人材育成に取り組んでいます。

そのためには、学校、地域が一体となって子どもたちを見守り、地域とのつながりを大切に「ひと・もの・こと」の関わりを通して、ふるさとや自然を愛する心を育てる取組をすすめることが大切であると考えています。

来年度に向けて

今年度は、昨年同様、伝統芸能や文化、花植えやリンゴ狩り等、豊富な体験活動や地域特産の茶や奈良晒をとおして、田原の良さに気付き、田原を愛する気持ちを育てる活動を地域の協力を得て、展開することができました。そのことで田原のよさに気づき、文化や伝統を守り、郷土を大切にしようという気持ちが育ってきています。

来年度は、これらの学習活動を継続、発展させられるように取り組みたいと思います。小中一貫教育校の特性を生かし、前期からの学習の積み重ねが中後期の学習へとつながり、深まっていくように、指導計画を見直し、実行していきたいと考えています。

テーマ

田原大好き キラキラ輝く 子どもたち

目標

- ・ 幼稚園は閉園を迎えることになるが、田原のことをもっと好きになり、誇りを持てる幼児の育成。
- ・ 地域の方々や小中学生との交流を通して、多様な経験や就学に向けての連携を図る

今年度の取組紹介

◆ 「真っ赤なリンゴ、おいしいね」(小学2年生・未就園児との交流)

今年度は小学2年生も一緒に地域にあるリンゴ園にでかけました。

地域の栽培家の方から、リンゴを育てる大変さや、収穫の仕方を教わり

グループに分かれて一人2個のリンゴを収穫しました。「〇〇ちゃん、どれにする?」「取れる?」と言って枝を持ってくれたり、「手伝ってあげるね」と抱っこしてもらったり、優しく接してもらったことで、その後一緒に食べる時も、会話が弾みました。

お互いに名前もすっかり覚え、中休みに一緒に遊んだり、『おもちゃランド』に誘ってもらったりした時も、親しみを持って自らかかわろうとする姿や、名前を呼び合って楽しむ姿が見られました。

◆ 「田原の地図をつくろう」(園内作品展)

自分たちが住んでいる田原のことをもっと好きになってほしいと考え、散歩に出かける度に幼児自らがカメラを構え撮影した写真を並べ、『田原の地図』を作成しました。つくった地図は地域の方々や小中学生にも見てもらおうと、園内作品展に展示すると、「ここ、僕の家だ」

「ここ、授業で行った△△神社だね」と話す小学生や、「上手に作ったな」「自分達で写真も撮ったのか」と、じっくりと見ながら子どもたちに直接感想を言ってくださる地域の方もいて、子どもたちもとても嬉しく自信につながったようです。



今年度のまとめ

- 5歳児クラスのための単学級体制になったことで、異年齢での交流が持ちにくくなることを見越して、今年度は地域の方々との体験活動に加えて、小中学生との交流も積極的に計画実施しました。その結果、子どもたちの就学に対する期待や、小中学生に対する親しみや憧れの気持ちなど、幼小連携を図る上で大変貴重な学びが多かったです。特に、リンゴ狩りに出かけ一緒に収穫して食したことは、小学生との交流は勿論のこと、地域の産物を知ったり、大切に育てた生産者の方の話を聞けたりと、有意義な園外保育になりました。
- 田原のことをもっと知って、もっと好きになってほしいと、地域の方々との交流を生かした体験活動を意欲的に行ったことで、保護者アンケートでもほとんどの方が良かったと、高い評価を受けています。

来年度に向けて

- 今年度で田原幼稚園は閉園を迎えますが、引き続き田原の子どもたちの成長を助けていけるような活動につなげていってほしいと思います。